



疫学の原理と現状 松村 康弘

2年生 春学期 (3セメスター) 週1コマ



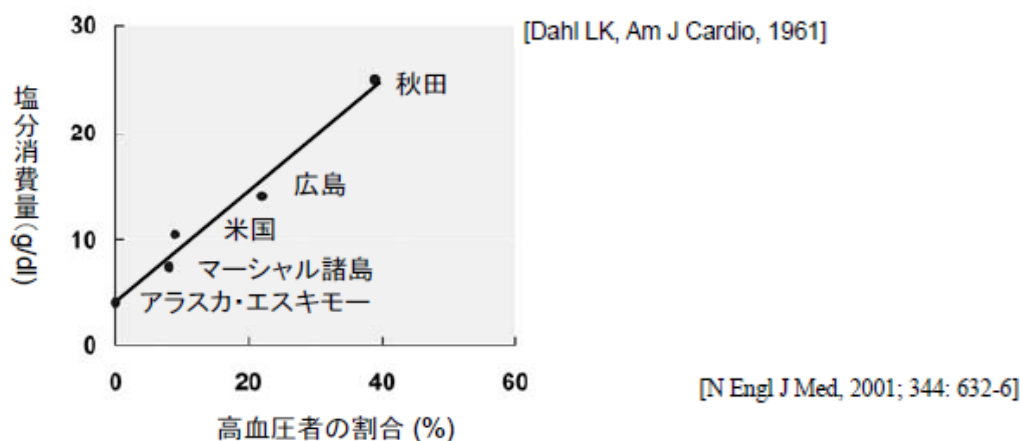
疫学 ～病気の原因を探り、健康の保持増進に役立てる～

— 謎解きの方法論を体系的に学ぶ

公衆衛生学は、人々がどのような健康問題をかかえているかを把握して、その原因を追究し、問題の改善を行うための社会制度を考案・実現していくものです。したがって、公衆衛生学の3本柱は、疫学（問題発見や原因追及の方法論）、教育（人々が自分自身の健康を保持増進することができるようにエンパワーする）、行政（医療・健康政策立案および組織としてそれらを実施）と言われます。

その中で、健康問題を発見したり、その原因を追究する疫学は大変面白い学問であります。栄養に関連した疫学研究の成果には、EPA（エイコサペンタエン酸）の心臓病予防効果の発見（デンマーク エスキモーの研究：1960年代）、脚気予防に関する高木兼寛（慈恵医科大学の創始者）の洋上実験などがあります。疫学の原理と現状の授業を理解すると最終的には、以下の表の意味を読み取れるようになるはず？

塩分消費量と高血圧の相関



緑茶摂取量と胃がん発生の関係

緑茶摂取量 (杯/日)	人年	胃がん発生率	相対危険度 (95%CI)
< 1	36,572	66	1.00
1 or 2	34,129	68	1.1 (0.8-1.6)
3 or 4	43,748	79	1.0 (0.7-1.4)
>= 5	85,748	206	1.3 (1.0-1.7)

食物繊維摂取と大腸がん

群	食物繊維摂取量 (平均)	大腸がん罹患患者数	相対危険度 (95%信頼区間)
最も少ない	12.6	156	1.00
↑	17.5	158	0.95 (0.75-1.19)
	20.9	131	0.75 (0.58-0.96)
	24.7	130	0.71 (0.55-0.94)
	31.9	131	0.72 (0.54-0.97)
最も多い			

年齢、体重、身長、性別、エネルギー摂取量を調整

[Lancet 2003;361:1496-501]

症例対照研究の例：口咽頭がんの関連要因

変数 (抜粋)		症例 (N=100)	対照 (N=200)	調整オッズ比 (95% CI)
		N (%)		
喫煙	しない	44 (44)	119 (60)	1.0
	する	56 (56)	81 (41)	1.6 (1.0-2.6)
性的パートナーの数 (生涯:人)	0	12 (12)	38 (19)	1.0
	1-5	46 (46)	110 (55)	3.8 (1.0-14.0)
	>=6	42 (42)	52 (26)	8.6 (2.2-34.0)
HPV-16の感染	-	43 (43)	186 (93)	1.0
	+	57 (57)	14 (7)	17.6 (8.8-34.5)

[N Engl J Med 2007; 356: 1944-56]

※上記以外の科目

- 公共保健政策論 (2年生秋学期・週1コマ) : わが国の主要疾患の状況、生活習慣の現状を踏まえた上で、保健・医療・福祉制度の現状はどうなっているのか、どうあるべきかを考える。
- 公衆栄養学 I・II (3年生春秋学期・週1コマ) : 公衆衛生学の栄養に特化した科目である。
- 公衆栄養学実習 (3年生秋学期・週2コマ連続) : 公衆衛生学、公衆栄養学に関連した情報の検索・収集・まとめを行う。その際、統計学的方法を用いたデータ解析を、SPSSというコンピュータソフトを使って行う。